

知事記者会見の概要

日 時：令和3年7月7日(水) 10:00～10:50

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 副知事の不在について

フリー質問

- (1) 千葉県八街市での交通事故を踏まえた通学路の安全確保について
- (2) 衆議院議員選挙への対応について
- (3) さくらんぼ盗難被害への対策について
- (4) 静岡県熱海市で発生した土石流災害を踏まえた対応について
- (5) 「羽越・奥羽新幹線関係6県合同プロジェクトチーム」の調査結果について
- (6) 代表質問に関連して
- (7) 医療的ケア児への支援について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。梅雨も真っただ中となりました。静岡県熱海市では、大規模な土石流で甚大な被害が発生いたしました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

私から川勝静岡県知事に対してお見舞いのメッセージをお送りしたところでもあります。そして、全国知事会でも広域対策本部を設置したところでもありますので、応援要請があれば、できる限りのことをしていきたいと思っております。

また、義援金の募金箱を、県庁や総合支庁に設置する予定でございますので、ぜひ県民の皆様からもご協力をお願いしたいと思っております。

昨年のこの時期に、本県でも最上川が氾濫して、県内各地で甚大な被害が発生いたしました。今年も線状降水帯が今、島根のほうで発生しているということでもありますし、本県にもいつ来るかということでも本当に心配をしております。ぜひ、県民の皆様も、市町村の避難情報などに注目をしていただきまして、できる限り、その時が来たら早めに避難をしていただきたいと思っております。

それから、新型コロナでありますけれども、昨日、一昨日と感染確認がゼロでございます。県内は一応落ち着いた状況になっているという認識をしております。しかしながら、全国を見ますと一旦は新規感染者数が減少傾向となりましたが、6月末頃から、また東京を、首都圏を中心に増加傾向となっておりますので、インド由来のデルタ株も置き換わりが進んでいると聞いておりますし、まだまだ予断を許さない状況だと捉えているところです。

県民の皆様には、改めて、感染リスク、そういったことがいつも身の回りにあると思っ
ていただいて、感染防止対策の基本中の基本であります、正しいマスクの着用、そして手指消毒、また三密回避、換気の励行といったことをしっかりと守ってくださいますようお願いをいたします。また、感染拡大地域との不要不急の往来を控えてくださるようお願いをいたします。

今日は発表ありませんので、私からは以上でございます。

☆代表質問

記者

幹事社の産経新聞と申します。副知事の不在についてお尋ねいたします。6月の県議会も終了いたしまして、副知事の人事案が出されるかと思いましたが、出されませんでした。このままですと9月議会まで副知事が不在ということになります。約半年の不在となりますけれども、今後、臨時会などを開いて副知事案を出されるご予定などありますか。時期を含めてお尋ねしたいのですが。

知事

はい。ではお答えいたします。現下の県政におきましては、ワクチン接種を核とした新型コロナ対策、それから認証制度をはじめとした経済対策、さらには今年の春の、凍霜害・雹害にかかる農業被害への対応など課題が山積している状況でございます。そういった中で県政運営につきましては、副知事不在の中ではありますが、各部局長の業務マネジメントの発揮によりまして、県庁の総合力をもってこの難局を凌いでいる状況であります。しかしながら私を補佐し、庁内の総合調整役を担う副知事が不在のままですと、これから本格的な大雨や台風シーズンも迎えますし、喫緊の課題への迅速な対応といったことや、私が県庁の外に出て、いわゆる現場主義と言っておりますけれども、県民の皆様とお会いして直接お話をお聞きする対話の機会も少なくなるのではと危惧をしているところでございます。このため私としましては、先週まで定例議会ございましたけれども、そこでも申し上げました通り、いろいろな方々からご意見をお聞きして、前に進めるためにしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

記者

前に進めるとおっしゃるのですけれども、もう7月に入っております、例えばすぐに夏休みが来たりしますけれども、すぐに9月になってしまうのですが、いつ頃の予定とかはございますか。

知事

はい、そうですね。ご意見をお聞きしたいと思っているところがございますので、相手の方々のご都合もありますし、私のほうの都合ということもありますので、今いついつということがなかなか申し上げられないのですけれども、できるだけ早くと思っております。臨時会とか9月議会とか決めているわけではないのですけれども、できるだけ早くというふうには思っているところです。

記者

まだ、そのお話を伺う方にはお会いされてはいらっしゃらないということですか。

知事

まだお会いしていません。先週議会が終わったばかりで、ちょっと私、月・火と人間ドッグに行っておりましたので、まだちょっと。今日はワクチンの大規模接種の合同会見などもありますし、いろいろと続きますので、その合間を縫ってということになるかと思っておりますけれども、まだ決まっていない状況です。

記者

どういった方にお会いする予定なのでしょうか。

知事

そうですね。やっぱり県議会で、あそこは多数決の場でございますので、お一人お一人のお考えがあっても、組織としてやはり活動されるようでありますので、組織の役員の方々と思っております。

記者

議会の方ということでよろしいのでしょうか。

知事

はい。

記者

わかりました。ありがとうございました。

☆フリー質問

記者

毎日新聞の小寺と申します。よろしくお願ひします。先日、千葉県の八街市の事故を受けて、あらためて県内各所で通学路の危険箇所の点検が行われていますが、危険箇所について補正予算を組むなどして、県として緊急的な対応というのは行う予定はありますか。もしくは、またそのお考えがあれば教えてください。

知事

はい。通学路ということであります。本当に八街市で痛ましい事故が起きてしまって、歩道がなかったということも、やはりひとつの要素だったのかなと思っております。県ではこれまでも学校関係者、警察及び道路管理者が連携して、毎年度通学路の点検を実施し、必要な対策を講じ、児童生徒の安全確保に努めてきたところでございます。学校関係では7月1日に教育庁から、児童生徒の登下校時の安全確保の徹底についての文書を発出したと聞いております。児童生徒の通学路等の把握、児童生徒への指導、警察及び関係機関、家庭、地域等との連携に取り組むよう通知をしたと聞いております。

また、警察本部では、登下校時間帯におけるパトカーによる通学路のパトロールや通学路の緊急安全点検、交通防犯ボランティアと連携した見守り活動、そして通学路における交通指導取締り及び飲酒運転取締りなどの取り組みを進めると聞いております。やはり、八街市の場合は飲酒運転でありましたので、そういったところはしっかりと起こらないようにすることが大事だと思っております。

そういうことで、学校と警察、それから道路管理者、県道であれば県であります。そし

てハードで言えば県土整備部が所管しておりますので、その3者連携して、通学路の安全点検をしてもらいまして、予算をかけて改善しなければならぬところはやはり、改善していければと思っております。

記者

共同通信、阪口です。お世話になっております。まず1点目は、衆議院選挙について伺いたいのですが、山形1区に、原田県議が5者会議として立候補されました。原田県議、県政クラブで、知事をお支えになっている立場だと思うのですが、知事選でもかなり支援をさせていただいたと思うのですが、その中で今回チャレンジする原田さんに対して、支援を今、知事として考えていらっしゃるのかどうか伺えますでしょうか。

知事

はい、そうですね。本当に大変な決断をされたなと思っております。原田議員は、おっしゃるように、ずっと私の選挙でも支援をしてくださいましたし、県議会で質問とか伺っておりますと大変博学でありまして、地元愛も強い、本当に力のある方だと思っていた方です。そういう方が決断されたということは、本当に素晴らしいことだと思っておりますけれども、私自身がどうやって支援するかということにつきましては、現時点ではまだ決めておりませんので、これから考えていかなければいけないのかなと思っております。

記者

加えて、出馬会見の時に、舟山康江参議院議員も知事との連携についても模索するような、今後検討するよなという話がありましたけれども、具体的な何か今、打診とかあったりしますでしょうか。

知事

いえ、まだ何もありません。

記者

ありがとうございます。もう1点、別件なのですが、今年もさくらんぼの盗難が県内で大変相次いでいると思います。昨年、この場で私ちょっと質問させていただいたのですが、その際に、今後対策についてできる限りのことをしていければというふうにおっしゃったと思うのですが、今年、過去10年で最高額と最高の量と伺っているのですが、県としての対応として、予算がつけられたりしたという点は具体的にはないと伺っているのですが、その検討、なぜつけられなかったのか、そのあたり伺えますでしょうか。

知事

はい。本当に今年は、さくらんぼを始めとする果樹が、大変不作ということで、生産者の皆様のご苦勞が本当に忍ばれるところです。本県の代表選手としてのさくらんぼですけども、大変な不作にもかかわらず盗難は本当に何件も起きておりまして、園芸研究所でもちょっと盗難に遭ったというようなことも、足元でもちょっとそういうことがあったということで、しっかりと監視と言いますか、防止対策をするように指示をしたところがあります。生産者の皆様のご苦勞を思いますと、年に1回しか収穫できないさくらんぼを、しかも不作な状況の中で盗難に遭ったと言いますか、本当に何とも言いようのない怒りを覚えるところでもありますけれども、県としてどういう支援ができるのかということ、農林水産部とも話をしてみたいと思いますが、まだ具体的にそういったことで、こういう支援が必要だというようなことをまだ聞いてはいないところです。

記者

具体的にされていることとしては、ラジオの注意啓発とかSNSでの発信というのはちょっと伺っているのですが、昨年、他県の例で、カメラとか赤外線センサーとかの導入に際して補助を出している県があるというふうに、ちょっとお述べたのですが、そういった取組みもなく、去年もかなり大規模な盗難があった中で、今年もまたそれを何も対策されずにまた盗まれているというのは、さくらんぼを代表選手と言われる中では、なかなか冷たくないかなとちょっと率直に感じてしまうのですが、そのあたりいかがでしょうか。

知事

そうですね。毎年盗難が起きております、間違いなく。それでこれまで防犯対策ということで地区の方々が見回りをされたりとか、監視カメラを付けたりとか、そういったご努力はされていると聞いたことがありますけれども、県の施策として講じたことはないかもしれません。防犯ということでどういったことができるのか、県としてどういうサポートができるのかということ、農林水産部あるいはJAの皆様方と一緒に、次は来年ということになりますので、ちょっと議論してみたいと思います。

記者

ありがとうございます。

記者

読売新聞の吉田です。よろしくお願ひします。2点伺ひます。

まず、冒頭の発言にあった静岡県熱海市での土石流を受けてなのですけども、それを受けての県の対応、県内での対応、具体例を申しますと、例えば国土交通大臣が盛り土を

点検するという方針を示されていますので、そうした県内での何か点検をするとか、そうした対応があるかというのをお聞かせください。

知事

はい。昨日、赤羽国土交通大臣が「農水省や環境省など関係省庁と全国の盛り土自体を総点検する方向で考えていく」旨の発言をされております。大規模な盛り土につきましては、例えば宅地造成など、それぞれの目的に応じて必要な許可を経て実施することになっているという認識であります。今後、国交省などから調査に関して何らかの考えが示されると思いますので、県としましては、関係省庁と連携しながら対応していきたいと考えております。今そういう状況でございます。

記者

現時点では、国から来ていないので、それを待ってからの県としての対応をするという、そういう感じになりますかね。

知事

はい。そういう対応は対応でやるのですけれども、確か県内の、今回の土石流が発生したということを受けて、県の担当のほうから市町村の担当のほうにも、確か警戒区域というところがありますので、そういったところに対してしっかりと警戒をしていただきたいという通知をしたと聞いております。

記者

それとちょっと別なのですけれども、ちょっと少し前ですが、先月奥羽新幹線と羽越新幹線のPT（プロジェクトチーム）の調査結果でB/C（ビーバイシー）が最大値でいずれも1.0を超えるという結果になりました、発表がありました。それに関する知事のご所見と、この結果を受けての今後6県と連携しての国等への関係機関への要望にどう生かしていくかというのをお聞かせいただけますか。

知事

そうですね、本当に6県連携して、そういった調査とかB/C（ビーバイシー）といったことについての取組みを進めてきております。そもそも、やはり太平洋側に比べて日本海側というのが、大変、鉄道整備が遅れていると言いますか、フル規格の整備が遅れているということもありますし、また国土強靱化という点から、私はやはり、太平洋側と日本海側をしっかりとつなげるということが大事でありますけれども、奥羽本線が福島から山形、秋田まで、しっかりとつなげていくということがやはり重要だと考えておりますので、そこも含めてしっかりと他県とも連携しながら政府に対して提案・要望をしていきたいと思っ

ております。東京・名古屋あたりは、フル規格はおろかりニアモーターがもう数年後にはつながるといような状況であるのに、遅れているところは未だに遅れているという、非常に不公平な状況だというふうに私は思っております。やはり日本全体が国土をしっかりと強靱化して開発する、そのことがやはり地方創生につながると思っていますので、そういった考えを持ってしっかりと6県連携して政府のほうにも要望を繰り返していきたいと思っております。

記者

NHKの藤井です。幹事社質問でちょっとよくわからなかったのですけれども。意見をお聞きしたいと知事が前からおっしゃっているのだけれども、結構、自民党執行部の意見って結構公の場でも明らかになっていると思うので、「若松さんを認められない」というのは公の場で言っているわけで、あっちサイドの意見というより、知事側の意見というのをしっかり示してほしいなというのは県民としてもあるのじゃないかなと。要は、若松氏、今後どうするのかと、特命補佐で今いらっしゃるけれども、副知事としての人事案というのは、若松氏では提案しないのかどうかとか、その辺の大方針というのを知事側からしっかり示して、意見交換の場というのはあると思うので、その辺はどのようにお考えなのか。

知事

はい。2月議会でその大方針をお示して、そして否決されたわけですね。そういう事実が一つあります。それでその後、その前にも、自民党のある役員の方と意見交換をさせていただいたわけなのですけれども、その後も仲裁の方もお話をしてくださったりもしましたけれども、案外話が進んでいないと言いますか、私としては県議会は、先ほど申し上げたように多数決で可決される場所でもありますので、一部の方は賛成して下さったけれども、半分以上の方が否決ということであのような事態になって、今続いているわけなんです。それでそれを打開するためどうしたらいいかということで、意見交換をさせていただきたいと思っております。4月は独自の緊急事態宣言とかで、コロナでとにかくいろんなことがあって、私もあまり動けなかったのですけれども、議会の中で申し上げましたけれども、5月に「自民党の役員の方と意見交換をさせてください」と申し上げましたところ、「人事案件であればだめ」というようなお答えでありましたので、その意見交換をまずさせてもらっていない、ただ新しい体制の方々、新しく体制が変わりまして、意見交換をしてくださるということでもありますので、まずその意見交換をさせていただいて。意見交換を直接させていただかないとちょっと方針も定まらないわけなんです。だって可決していただかないと意味がないと思っています。1回否決されていますのでね。そういった状況でありますので、私のほうから方針を出す、その前にやはり意見交換はぜひとも必要なことではないかなと認識をしております。

記者

よくわかりました。それで意見交換なのですけど、要はお互いの意見を持ち寄るということなので、そこでの知事の意見というのは何なのですか。

知事

今申し上げることはちょっとできないのですけれども、ただ相手の皆さんがどういうふうに思っているかということ、まずしっかりとお聞きしたいと思います。そしてそれをお聞きして、私のほうも考えていきたいと思っています。

記者

では、若松氏の人事案として出すということも選択肢としてあるわけですね。その意見交換の場では。

知事

意見交換になれば、あらゆる選択肢があると思っています。

記者

つまり、若松氏の再任案も含めて意見交換の場に臨みたいという、そういうことですか。

知事

はい、本当に、すべてが選択肢になり得るというふうに思っています。まずお聞きをしてみたいと思います。個人の方々と、一人ひとりだと「自分はいいんだけどね」と言いながら「組織なので」というふうになってしまうので、今までお話を聞きするとそうでしたので、やはり組織の役員の方々と意見交換をさせていただいて、方向性を決めていきたいと思っています。

記者

それですね、今おっしゃった「自分はいいんだけどね」と言って「組織は違う」と言った方に、これまでいろいろ接触を図ってこられたと思うのですけれども、知事として。

知事

いやいや、複数おられます。

記者

複数ね、おられると思うのですけれども、それ、組織に最初から話せば良かったわけで、そういった何か根回しとか水面下の話し合っていて結局失敗しているわけじゃないですか。

それで事ここに及んでいるわけで、その辺については知事はどのようにお考えなのか。

知事

組織の方々とは、だから意見交換をさせていただこうとすると、人事案件についてはだめということでしたのでお話し合いはさせていただいておりません。新しい体制になってからは意見交換に応じますということでもありますので、これからだと思っています。

記者

若松氏も選択肢にあるということでおっしゃったので、それについて、県内の首長から、批判の声が上がったりとかありましたけれども、それについては、若松氏、現在も要職に就かれているわけで、ご本人からそういったことをご説明するとか、そういった機会の場を設定するとか、そういった考えは知事にはないのでしょうか。

知事

まだ方向性も定まっていないので、そういう段階ではないというふうに思っています。

記者

副知事ではなくて、現職で要職におられるわけですよね。

知事

はい。

記者

ですから、そういった疑問が生じれば、ご本人は「一切そんなことはしていない」とおっしゃっているわけですから、広くそこはご説明すればいいんじゃないですか。

知事

誰に説明するんですか。

記者

県民に、こういった記者会見の場とかで、要はそういった「疑惑を持たれるようなことは一切言っていない」ということを。知事を介してね、それは県民にはそういった話はあるけれども、ご本人の口から正々堂々とその辺をご説明されたらいいんじゃないかなと思うのですが、そういった場は設けられないんですか。

知事

はい。そういった場を設けるというようなことは、私はちょっと聞いておりませんし、私としてはそういう必要があるのかどうかわかりません。本人にはそのことはお伝えしたいと思いますが、そのようなことを、私が『全く言っていない』と聞いております』ということは、県民の皆さんにはお伝えしておりますけれども、そういう場まで必要かどうかということは、首長の皆さん方も会見して言っているわけではございませんので、そういったことまでちょっと私は必要なのかなと思っております。

記者

あと1点、スケジュール感なんですけど、この意見交換の場っていうのは、いろいろとスケジュールが相手方にも自分にもとおっしゃっていましたが、ただ、これは早くその場をセッティングすればいいことだと思うんですけど、その辺はどのあたりを目途に考えて、9月議会と臨時会というのがありますけど、こういった方向性で考えていますか。

知事

それは先ほども代表質問でもありましたけれども、こういったふうになるかは、現時点ではちょっと申し上げられないところです。記者さんが急げ急げというようなご指摘かと思っておりますけれども、やはりこの案件というのは、非常に大事な案件でありますし、先週やっとなんか議会が終わったところであります。これからしっかり取り組んでいきたいと思っています。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

日本経済新聞の増渚です。よろしくお願ひします。医療の分野で、医療的なケアが日常的に必要な医療ケア児について伺います。医療ケアが必要な子どもに対する対策というのが求められていますけれども、県としては昨年ガイドブックを作成したということ伺ったんですが、この時期、災害が多発しかねない時期を迎えて、さらに踏み込んだ対策とか、そういったことをお考えであれば伺えればと思っておりますけれども。

知事

そうですね、まずはその感染防止対策ということでありましたり、それから避難する場合の避難場所、どこに避難するかということが一つありますし、その避難した場所でどういったケアができる態勢を取ることがあるかと思っておりますので、そこについてやはり防災くらし安心部と、避難場所を設けるのは市町村でありますので、しっかりとそう

いったことについても内容把握をして、そして周知をしていく必要があると思っています。

記者

朝日新聞の鷺田と申します。副知事の話でちょっと戻ります。ここまでの議会で、いろいろ議員のほうからも追及はあったと思うのですけれども、若松さんが例えば任意聴取を受けたかどうかというのも含めてですけれども、ここまで正直なところ県民側からするとゴタゴタの状態になっていると思うのですけれども、この状況において若松さん自身は副知事をやりたいと思っているのですか。吉村さん自身はまだその考えがある、それも含めてこれから相談していくということですが、若松さん自身はどう考えているのですか。

知事

その本人の考えは私はわかりません。お聞きしてもおりません。

記者

ここまで人事が決まらないのは、要は議会の中でもおっしゃっていましたが、自民党と何度か役員の方と話をされて、ただ断られたという話でしたけれども、ここまで決まらないのは知事がしっかりと建設的な意見を提示していない責任なのか、それともただ単に意見をはね返す自民党のせいなのか、どちらだというふうにお考えですか。

知事

どちらということではなくて、やはり、知事選があって、そしてそういったことのあおりと言いますかね、いろいろな思いというようなことも反映していたのかなというのが2月議会だったと思っておりますけれども、その後、意見交換がなかなかできないというような状況があって、そして6月議会に入ったんですけど、議会の前日からいろいろ報道が始まったり、そして代表質問、一般質問、予算特別委員会3日間というふうに、ずっとそういうお話でありましたので、とても提案できるような状況ではなかったということをご理解をいただきたいと思っています。まずもってその意見交換を私はさせていただきたいと思っておりますので、そこがやはり一丁目一番地なのかなと思っています。

記者

山形新聞の手塚と申します。先ほどの災害のお話のほうに戻りますけれども、熱海で土石流が発生しまして、本県でも昨年7月の豪雨からまもなく1年というこの時期で、その熱海の件に関しては、避難の遅れというものも一部で指摘をされている中で、そうした状況を踏まえて、県として、あるいは市町村としては万が一また昨年のように、災害が発生する場合に、どのように備えるか、あるいはどのように対応すべきか、そのあたりのお話をお伺いしたいと思います。

知事

はい。本当に熱海市の伊豆山地区の、土石流というのは私も報道で拝見しましたけれども、衝撃的な映像でありました。ああいう場で、はたしてどのくらい前にね、周知したら逃げられたのかというような、本当に慄然とした思いであります。

本県の場合、土石流になるのか、あるいはまた最上川のような氾濫ということになるのか、本当にどういった事態が起こるのかちょっと掴めないところではありますが、ただ、やはり雨の予報というのが出されますので、そこをしっかりと把握して、そして県と市町村とで、あと県民の皆さんもしっかりその情報を把握して、そして先に避難指示といったことを先々におこなっていただき、また、大丈夫だと思っても県民の皆さんには避難をしていただきたいと思っていますので、防災くらし安心部とも話したのですけれども、とにかく天気予報を見ながら雨がどのくらい続くのか、どういう気象台からの発表があるのかということに、本当に注視をしながらしっかりと市町村と連携して県民の皆さんに情報をできるだけ早くお渡しをして、そして避難を早くする、そのことに尽きるのかなと思っています。昨年のあの悪夢のような氾濫、ああいったことが、本当に起きてほしくないと思っていますけれども、もしも起きるとしてもやはり人命第一で、犠牲者が出ないように全力で取り組みたいと思っています。

記者

その避難指示を出すタイミングとしては、もちろん早めということではありますけれども、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

知事

タイミングというのは、たしかこういう場合というのがあったかと思っておりますので、あれをしっかりと守っていただいて、そして住民の皆さんには迅速に避難をしていただく。あるいはもう指示が出される前であっても避難をしていただくということも大事なのではないかと思っております。

記者

TUYの結城と申します。副知事問題でお伺いしたいんですけど、現状、特命補佐は制度上知事の権限でずっと置き続けることができるわけですが、新たな副知事が就任された場合も特命補佐を置き続ける意向がおありになるのかお聞かせください。

知事

はい。それについては、今お答えすることはできません。というのは、名前からして「コロナ克服・経済再生特命補佐」でありますので、コロナというのが9月まで収まるというよ

うなことはちょっとまだわからないところでありますので、やっぱり状況を見ながらということになるかと思っています。

記者

とすると、特命補佐をずっと置き続ける以上は、副知事が。

知事

ずっとということでもないかと思っていますので。

記者

そうですか。語弊があったらお詫びします。そうしますと、副知事の新たな人事案をお出しになることをさほど急がなくても、制度上なんとか成り立っているような印象も受けるのですが、それについてはまた別個の問題として、急いで考えられているというふうに捉えてよろしいのでしょうか。

知事

はい、そうですね、今のところそういうふうに見えるかもしれないのですが、ただ、ワクチン接種がどんどん進んで、そしてコロナが収束の方向に向かう、そしていろいろな経済活動でありましたり、現場へのいろいろな私なりの活動といったものが、必要になってくる、そういう場合には、非常に不便なことになるかと思っています。特命補佐がいても、やっぱり副知事とはまたまったく違う職域でありますので、それは別々に考えていただいてよろしいのではないかと思っております。

記者

わかりました。あともう1点だけ、八街市の事故のことで、先ほど予算立てて状況によっては対応も必要、整備したいというご意向を示されましたけれども、具体的に何か考えていらっしゃることですとか、関係部局とお話されていることがあれば教えてください。

知事

県土整備部と話したわけなんですけれども、教育長と、それから県警と三者連携でしっかり精査していくということでありましたけれども、やはりその内容によるんだと思っています。やはり早め、もっと早めにここは直さなければ、改善しなければならぬとかいうそういうところをございましたらば、やはり早めに取り掛かるといったことも必要かと思っていますので、今どういうふうな内容なのかを待っているところです。

記者

今、そうしますと、各地の地域のその状況というものを精査する、その状況を待っていらっしゃると考えでよろしいわけでしょうか。

知事

そうですね、はい。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

山形放送の新野と申します。すいません、先週の木曜日の夜なんですけれども、県議会閉会の前日の夜なんです、山形市内のホテルで午後7時頃に知事が一部県議と会合に参加されていたかと思うんですが、その点については、なぜ参加されたのか、どういう判断で参加されたのか、また、新型コロナが12日連続でゼロという日だったわけなんですけれども、こういったところで参加された知事の判断と、ガイドラインに沿っていたかというところをお伺いしたいのですが。

知事

はい。そうですね、ミーティングという形で参加をさせていただきました。弁当を出していただいて、その場で食べないで持ち帰るという形での参加でありました。ですから会食ということではなく、前とそれから左右両方にアクリル板を置いてマスクをしてのミーティングということでありましたので、しっかりと感染防止対策をしながらのミーティングだったと思っています。

記者

基本的には問題ないという認識で大丈夫でしょうか。

知事

そうですね。そこで飲み食いしたということではなくて、できる限り経済も少しは回していかなきゃいけないということもずっと思ってきておりますので、感染防止対策をしっかり講じながらワクチン接種もどンドンと進めて、そして本当に危機的な状況にある地域経済、そういったことを少しでも回していけるようにということは、私は常々考えているところでございます。

記者

山形新聞の田中です。まず1点目、熱海の土砂災害を受けてのことで改めてお聞きしたいんですけども、要は避難勧告というのがなくなって、今、避難指示に一本化されて、要は災害時の避難行動を、スムーズにさせて犠牲を少なくしていこうという考えに今立っています。今回の熱海の事故もふまえて、知事も先ほどおっしゃいましたけども、市町村長が、その避難の誘導を出すタイミングというものを例えば早めに躊躇なくという、その辺のメッセージを知事からまずはお聞きしたいなと思います。

知事

はい。今、日本中がやはり梅雨という状況になっておりまして、梅雨前線が活発に活動しております。そういう中で、やはり土石流でありましたり、川の氾濫でありましたり、本当にさまざまな災害が発生する可能性がたくさんあります。

山形県としても本当に、昨年も一昨年も、毎年のように、河川の氾濫が起きておりますので、しっかりと準備をしておく必要があると思っております。

市町村の皆さんにはできる限り早め早めの避難指示を出していただき、また、住民の皆さんには「自分は大丈夫だ」と思わないで早め早めの避難行動を取っていただきますようお願いしたいと思います。

記者

ありがとうございます。もう1点お願いします。副知事不在の件で、確かに県庁内部でも副知事不在というものを総合力でカバーなさっているということでしたけども、市町村の関係です。これはやっぱり、今コロナのワクチンが進んでいるとはいえ、ワクチン不足の声が出ていたりとか、ワクチンの接種状況によって県内でもひょっとしたら経済活動のスタートできる時期の格差が出てしまうかもしれない。そういう中でやっぱり県と市町村との連携、信頼関係というのが大事だと思うんですけども。例えば市長会、まだ知事のほうに申し上げてはいないのかと思うんですけども、年2回程度の意見交換をしたいという意向を持っておられるとか、12月の予算編成時期を迎える前に、やはり県としても何らかの市町村との話し合いをするためのメッセージ、機会を設けたいというものを出されるべきかと思うんですけども、そのあたりの知事のお考え、市町村との対話とか連携、信頼関係の再構築のあり方、どのように今お考えになっておられるのか教えていただければと。

知事

はい。市町村との連携でありますけれども、県と市町村は本当に連携していかないと発展はあり得ないと思っております。もっともっと連携を密にする必要があると思っております。ずっと県政に取り組んでまいりました。

それで、今も副知事不在ではありますけれども、昨年度末に、市長会に対して、町村会

に対しても両方なんですけれども、県との連携会議といったことについてどういうふうにしていくか、1年かけてしっかりやり取りをして次年度から実践したいと思いますのでご議論お願いしますということで申し上げております。それで市長会、町村会の皆さんとお話し合いをしていきたいと思っております。

今、途上でありますので、今結論は出ないのですけれども、やはり県と市町村というのは年2回やっておりましたが、そのほかにも町村会とはやっていたという経緯がありますけれども、市長会とも必要という声も出るやに聞いておりますので、まずお話を伺いしてしっかりと考えていきたいと思っております。連携はもう絶対必要であって、大事なところでもありますので、どんどんとより良い連携をしていけるように、私としてもしっかり取り組んでいきたいと思っております。